

県木協だより

編集発行 宮城県木材協同組合
仙台市青葉区東照宮一丁目 8-8
TEL 022-233-2883
FAX 022-275-4936
E-mail:miyagi_wood@waltz.ocn.ne.jp
URL:https://www.miyagi-wood.jp/

謹賀新年



理事長 千葉基

皆様、新年おめでとうございます。輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年コロナによる活動制限が残り、十分な組合活動ができませんでした。しかしそのような制約の中でも事務局の皆さんの頑張りにより、福島で開催された「第五十六回全国木材産業振興大会福島大会」の成功など、一定の成果を上げていただきました。皆様のお働き、ご協力に心から感謝申し上げます。

コロナ禍中の商売の厳しさ

地方の材木店の体感としては、新築木造住宅需要が急激に減少しているように感じている。ウッドショックに始まった建築資材の値上がりは大幅なものとなり木造住宅の需要回復にはかなりの時間を要する可能性がある。そして建主が地場工務店に相談し、そこか

ら材木店に発注されるという既存の商流はますます厳しい状況になっている。

みやぎ森林・林業未来創造機構

このような中、息長く宮城の森林と木材産業を育てようとする機構の存在は希望の光である。機構事業の進展は高性能林業機械の導入拡充などにより、林業生産性の大幅な改革をもたらす。生産性改革は山元、林業事業者、木材業者に利益をもたらしつつ、木造住宅拡大に貢献することを期待したい。

時と共に林業の最適生産が確立しそれに伴って伐採量と再造林面積が拡大し、カーボンニュートラル（CN）に貢献する宮城の山になって欲しい。特に山元での再造林はCN対策として喫緊の課題である。植林された若木のCO2吸収に大いに期待している。

熊本県人吉市の応急仮設住宅

豪雨災害のあった人吉市は、かなりスピーディに内外装ともに県産スギ材を活用した、多数の応急仮設住宅を提供した。県産スギ材の内外装材大量供給は至難の業である。当然

事前の準備が必要になる。県内でこの役割を担うとすれば業界人多数が株主である仙台木材市場において他にないと思う。政策による手厚い助成のもと、仙台木材市場が県産スギ材内外装材の在庫、仕上げ、出荷機能を持つことを期待する。

私案「間尺に合う軒の出豊かな

宮城〇〇の家」構想

宮城県産スギ材、特にA材の消費拡大のために「間尺に合う軒の出豊かな宮城〇〇の家」事業を提唱する。〇〇は建築する工務店名である。

間尺に合うは割に合う（お得な）という意味だが、ここでは6寸柱と4寸柱（合わせて尺）を活用した在来木造住宅の意味も合わせ持つ。通し柱を主に、要所に6寸柱を使用し、他は4寸柱とする。

また、梁・桁材を従来の米松材や集成材から変更して県産スギ材とする。スパン表を活用して適切な寸法を出し、スギ材を活用することで県産スギ材の飛躍的な消費拡大となる。この太い構造材により、長寿命住宅となることが期待できる。

そして、太い柱材の豊かなところ

を活用して高断熱性能を確保する。

また、太い垂木材を活用した豊かな軒の出は風雨から住宅を守り、長寿命に貢献する。そして、塗料の力も借りつつ、防火の問題はあるが内装材に限らず外壁材に木材を採用する。豊富な木材使用、長寿命と断熱性能各要素でCN貢献住宅となる。

私が軽井沢で見学した友人のフィンランドハウス。外壁は荒挽きの欧州材の塗装仕上げ。内部の船形天井、壁、階段は欧州松。床はオーク材。サッシも重厚な木製建具で高い断熱性能を持つ。これだけの木材尽くしの家は初めてだった。

間尺に合う（割に合う）住宅建築推進には政策支援が不可欠である。県産材大量利用住宅に対する特別な支援と富県宮城政策による県内産材に対する助成で間尺に合うCNを促進する住宅建築を推進したい。視野が狭くて恐縮だが、私が住む大崎市のYKKAPの高断熱性能サッシや北隣栗原市のイノアックで製造する高性能断熱材などを想定している。CNに貢献する県産材は他にもあることと思う。

希望のある豊かな事業成長の一年に
五十年後の二〇七〇〜八〇年頃には海水に含まれる重水素等を燃料とするCO2を

発生させない核融合発電が実現すると想定される。

また、気象工学の進展と合わせて地球温暖化問題はほぼ解消される可能性（内容詳細は割愛させていただく）がある。

繰り返しになるが、今現在の適齢林の伐採と木材利用、植林と育成によりCO2吸収ができる。また、長寿命の住宅、解体家屋木材のリサイクル活用によるCO2の固定化も拡大していけば、当面のCN課題解決となり、将来につながるができる。

宮城三区選出の西村明宏環境大臣が国内外で大活躍している。西村大臣は私達宮木協も加盟する宮城県林業団体連絡協議会会長である。西村大臣ならば環境問題解決と林材業振興を両立させ、豊かな森林と木材産業を創り上げてくれる期待している。

今、私達の業界の使命は木材を活用し、伐採したら植林することを地道に続け、長寿命住宅を世に供給する。

この仕事により希望のある豊かな事業成長の一年となる事を心から祈念している。



『第二十四回みやぎ木造住宅コンクール結果』

県内各地から応募作品が寄せられ厳正な審査の結果次のとおり表彰されることになりました。

なお、入賞作品は木造住宅コンクール写真集として発行しております。

施主市町・施工者・設計者
最優秀賞 宮城県知事賞
松島町・タカハシ木材style(株)・同



最優秀賞



優秀賞 宮城県建築士事務所協会会長賞

大崎市・(株)サステイナライフ森の家

・studio syncroll

優秀賞 宮城県木材同友会会長賞

仙台市・(株)興建ハウジング・由利設計工房

優良賞 宮城県木材同友会会長賞

大河原町・(株)サカモト・同

優良賞 宮城県建設職組合連合会会長賞

仙台市・(株)気仙沼工務店・同

特別賞

角田市・共栄ハウジング(株)・(有)ササキ設計

表彰式は、二月二十五日にホテル白萩で開催する予定です。

新年のご挨拶



宮城県水産林政部
林業振興課長

大信田 知英

新年明けましておめでとうございます。

宮城県木材協同組合会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。また、本県の森林、林業・木材産業行政の推進につきまして、日ごろから格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、ウッドショックやロシアによる単板などの輸出禁止措置、円安の進行などを背景に、輸入材の供給リスクが顕在化し、国産材の需要が高まる中、木材価格が高騰するとともに、山元立木価格も大幅に上昇しました。国産材への転換の動きが広がることは、国内林業にとりまして追い風ですが、この流れを一過性のもので終わらせないためにも、サプライチェーンの構築が重要となります。特に、今後の住宅以外の大型建築物への木材需要を獲得するためには、川上から川下までの関係者が連携し、ユーザーの要望にしっかりと

と応えられる体制づくりが求められます。

一方、物価高騰の長期化は、新築住宅着工数への影響が懸念されます。県といたしましては、国の経済対策と連動し、県産材利用の更なる拡大に努めてまいりますので、会員の皆様におかれましては、引き続き、森林、林業・木材産業が持続的に発展できるよう、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、第四十八回全国育樹祭が令和七年度に本県で開催されることが決定いたしました。森林を持続的に守り育てることの大切さとともに、震災で壊滅的な被害を受けた海岸防災林の復旧などの取組を、全国に紹介するまたとない機会と考えております。

今後は実行委員会の立ち上げや基本計画の策定など、本県では初となる全国育樹祭の開催に向け、万全な準備を進めてまいりますので、貴組合及び会員の皆様におかれましても、様々な面で御協力をお願いいたします。

結びに、宮城県木材協同組合の益々の御発展と、会員の皆様の事業の御繁栄を御祈念申し上げます、年頭に当たつての挨拶いたします。

「みやぎCLT普及促進事業」について

宮城県 林業振興課

県では、CLTを活用した建築物等の普及推進を図るため、県産CLTの購入費やCLTを活用した製品開発などに対して補助する「みやぎCLT普及促進事業」を実施しています。

CLT (Cross Laminated Timber) はひき板を横に並べ、層ごとに繊維方向がクロスするように積層接着した大判のパネルで、ヨーロッパを中心にマンションや商業施設の壁や床として利用されるなど、中大規模建築物の木質資材として普及し発展してきました。

CLTはパネル状の建材なので、多くの木材を使うことができます。これまで木材を使うことが難しいとされていた中大規模建築物にCLTが使われることで、林業・木材産業の活性化、さらには二酸化炭素排出量削減や森林保全など、地方創生や地球環境への貢献に大きな期待がされます。ここでは、中大規模建築物を主な対象とした事業の概要とこれまでの活用事例について紹介いたします。

令和二年度の事業により建てられた学校法人たちばな学園「みやの森こども園」の園舎には、厚さ九センチのCLTが使われています。木造一部二階建て、延床面積約二千六百平方メートルで、屋根にCLTを活用することにより庇を支える柱が不要となり

園児が走り回れる安全で開放的なテラスが実現されています。保育室・廊下など建物内の一部梁は木材を現しとしており、軒天CLTの現しと相まって、木造特有の温かみのある空間が創出されています。



また、令和三年度の事業により東北ボーリング株式会社、仙台市若林区にCLTを使った新社屋の建設を進めています。



新社屋は二階建ての木造軸組工法で、床や屋根にCLTを使用することにより仕上げ材料や工程を省くなどのコスト低減を図る計画で、令和四年度末竣工に向けて建設

が進められています。新社屋の柱や梁には石巻市北上町のスギがふんだんに使用され、脱炭素社会の実現に向け宮城県初のCLTを活用した「ZEB」の実現も目指しており、県産木材のぬくもりが感じられる持続可能性に配慮したオフィスの実現が期待されます。

県内におけるCLTを活用した建築物は、平成二十八年三月に県産CLTを使った木造施設が名取市に完成したのを最初に、完成事例がこれまで二十件を超えました。仙台市など都市部を中心にCLTへの関心が高まっており、CLTを活用したい方々からの相談件数も年々増えているところです。事業の詳細等については、宮城県のホームページ内の林業振興課のページ等でご確認ください。

「問い合わせ先・林業振興課みやぎ材流通推進班」
TEL 022-221-2922

地域から

「栗原地域の県産材利用の取組」

宮城県北部地方振興事務所

栗原地域事務所

栗原地域事務所管内の栗原市は、広大な豊かな自然環境に恵まれており、栗駒山や県内最大の高層湿原でニッコウキスゲで有名な世界谷地、ガンやハクチョウの飛来地

として有名なラムサール条約指定登録湿地の伊豆沼・内沼を有しています。

管内の森林面積は四四、一三八ヘクタールで管内土地面積の五五パーセントを占めています。そのうち民有林は二九、九六七ヘクタールで県内市町村で最大規模となっています。また、収穫可能な八齢級以上（三六年生以上）が一四、一三〇ヘクタールで人工林面積の八四パーセントに達し、利用可能な資源が充実しており、その活用が課題となっています。

地域材の利用促進に向けて、宮城北部流域森林・林業活性化センター栗原支部と連携しながら、栗原市に対してさらなる公共施設の木造化、県産材利用を働きかけるとともに、工務店、木材加工業者等に対しても県産材利用拡大に向けた取組を支援しています。

栗原市では、新たに建設する施設においては、栗原市産材の利用を推進しており、最近では、栗原市若柳総合支所（平成二八年度）、栗原市若柳認定こども園（令和三年度）が建設されました。栗原市若柳認定こども園は、延べ床面積四、一一四平方メートルで、施設全体の木材使用量は九一〇・七八立法メートル、うち市産材の使用量は一九四、一六立法メートルとなっています。



廊 下



全 景

園長先生からは、木のぬくもりを感じ、子供たちは裸足で過ごしており、暖かさを感ずるといった感想がありました。

今後も、地域の公民館など新たな建設計画の策定時には栗原市産材の利用を働きかけていくとともに、引き続き管内の地域材利用促進について取り組んでいきます。



保 育 室

柱や梁、土台等の主要構造部材や廊下の腰壁、玄関の天井等の仕上げ材に栗原市産の杉材を使用し、木の温もりを感じられる室内空間となっており、特に遊戯室は、天候が悪い時も子どもたちが屋内でのびのびと活動できるよう、廊下との一体的な利用を可能とし、開放感にあふれたスペースとしています。

非住宅含め木造建築が進んでいます。温暖化対策でも森林や木材利用が注目されています。我が業界の未来には希望があります。木材会館の木造建替えを初夢としないでしょうかは現実にしたもの。(好)



知事へ



池田副議長へ

林団連 知事・議長に要望活動

千葉理事長が会長代行を務める宮城県林業団体連絡協議会は、昨年十一月十八日宮城県に「森林・林業・木材産業の振興に関する要望活動」を行いました。十七団体の代表が知事、県議会議長に木材利用拡大推進等七項目を要望し、知事からは森林を守るとともに要望内容の取組を進めると回答がありました。



夢の森つやま協同組合
理事長 佐々木善市様

誠にありがとうございます。

第五十六回全国木材産業振興大会
(十月二十七日)
優良組合 全国木材協同組合連合会会長賞

令和4年11月17日から令和5年2月28日まで、宮城県に「木材製造業死亡労働災害多発警報」が発令されています。特に、非定常作業や機械運転によるものが重大災害につながりますので、改めて点検、見直し、安全対策に十分留意しましょう。

この1年、ご安全に！！

木材製造業 死亡労働災害 多発警報発令中！



ロープ・たて木をはずす前に
荷崩れ危険確認の徹底



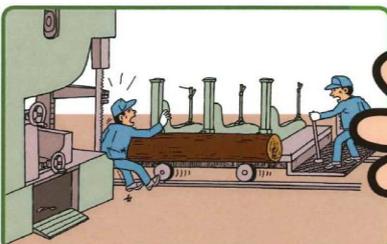
中抜き禁止



積み過ぎに注意



木屑除去作業は運転を停止



立入禁止区域内に立ち入らない



トラブル対処は運転を停止



荷崩れ防止措置を徹底



回転物の突起物には覆いを設置



林業・木材製造業労働災害防止協会